

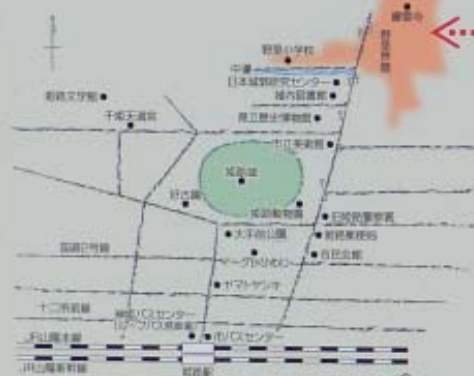
野里めぐり

ノゾト 野里というところ

野里の地域は姫路の中心から北東部に位置し、古代から交通の要路にあっていた。奈良の都(平城京等)京都(平安京)大阪等の上方と西国の地を結ぶ山陽道の幹線街道や北方の但馬道を結ぶ経路にあたることから、この地に古くから集落が発達した。豊臣秀吉が西国平定のために築いたのが姫路城(1581年)であり、この時、野里街道を基盤とした城下町が形成された。その後、池田輝政(1601年～1608年)が姫路城を改修し、連立式天守を擁する姫路城を完成させた。池田輝政の築城と町割により野里は「外町」として、但馬、東播磨、北播磨方面の物資集散の役割を果たし、又、慶雲寺、雲松寺などの門前町として、江戸時代を通じて栄えた。

野里は水陸交通の要地であった。水路は船場川より飾磨港へ、陸路は西国街道が野里と八代の南部を通っていた。(西国街道は後に姫路城の南に変更された。)

豊臣秀吉の築城以降、本多忠政の時代(1617年～1630年)までに城下町がほぼ完成し、町名にはそれぞれの歴史がある。



野里の町名



お夏清十郎二人づれ

船場川



明珍本舗

現代の当主は平安時代から800年以上続く明珍家52代。作られる製品も火箸から風鈴、花器へと時代とともに変化はあるが、その製造の秘伝により世界的な品物が製造されている。



日吉神社

承和7年(840)随願寺の鎮守として比叡山の日吉大社から勧請されたといひ、山王権現とし称した。境内には寛政9年(1797)の狛犬一對、弘化3年(1846)の常夜灯一對、「右たしま(但馬)、左ひろみ祢(広峯)」と刻印された道標がある。



魚橋呉服店 (昭野市都市景観重要建築物等 第31号)

魚橋呉服店は、野里の南北通りの商店街の北よりに位置し、野里商店街で唯一の呉服屋を営んでいる。魚橋呉服店の主屋は南北二棟からな

正願寺

明応年間(1492~)以後古野里村にあった念仏道場で、開基は教年法師で天正9年(1581)創建といひ真宗大谷派。一説には天正8年(1580)羽柴秀吉により木城が落城し避難してきた人々により威待跡に建立されたと推定される。堂は元禄14年(1700)の再建である。



お夏清十郎三人づれ

船場川

梅ヶ枝

承和7年(840)随願寺の
て比叡山の白吉大社から
といい、山王権現とし称し
には寛政9年(1797)の狛
化3年(1846)の常夜灯一
しま(包馬)、左ひろミ祢
印された道標がある。

大阪
した。

町割
して、

西国街

正願寺

明応年間(1492~)以後古野里村にあつた念仏道場で、開基は教年法師で天正9年(1581)創建といひ真宗大谷派。一説には天正8年(1580)羽柴秀吉により三木城が落城し避難してきた人々により威徳寺跡に建立されたと推定される。本堂は元禄14年(1700)の再建である。



魚橋呉服店 (姫路市都市景観重要建築物等 第31号)

魚橋呉服店は、野里の南北通りの商店街の北よりに位置し、野里商店街で唯一の呉服屋を営んでいる。魚橋呉服店の主屋は南北二棟からなり、明治32年に主屋南側を住家として、大正14年に主屋北側を呉服店として建てられた。商店街全盛期の商家の趣を良く残しており、現在も呉服店として使用され、商店街のシンボリックな建物となっており、都市景観上重要と認められる。



伊伝居

大野家住宅 (姫路市都市景観重要建築物等 第33号)

大野家は姫路城北東の野里商店街に面し、元禄時代から「鍋市」と号する鋳物屋を営んでいた。建築年代は明治前期以前と推測され、南側部分は明治33年に増築されている。平成16年に、屋根、漆喰壁と木に当初の形状を保ったまま修復され、外観の保存状態は野里地区の町家でも特に良好である。また、一階部分は地域の様々なイベントに利用され、人々に親しまれている。



お夏・清十郎比翼塚

豊雲寺は、今を去る約550年前の嘉吉3年(1443)、天台宗のお寺として創建された。現在の神宗(臨濟宗妙心寺派)に転じたのは、天正5年(1577)、南景和尚の代で、約400年前に当たる。その後、名物



ぞれの歴史がある。

り、明治32年
14年に主屋北
商店街全盛期
現在も呉服店と
ル的な建物とな
められる。

伊伝居



大野家住宅(姫路市都市景観重要建築物等第33号)

大野家は姫路城北東の野里商店街に面し、元禄時代から「鍋市」と号する錆物屋を営んでいた。建築年代は明治前期以前と推測され、南側部分は明治33年に増築されている。

平成16年に、屋根、漆喰壁ともに当初の形状を保ったまま修復され、外観の保存状態は野里地区の町家でも特に良好である。また、一階部分は地域の様々なイベントに利用され、人々に親しまれている。



お夏・清十郎比翼塚

慶雲寺は、今を去る約550年前の嘉吉3年(1443)、天台宗のお寺として創建された。現在の禅宗(臨濟宗妙心寺派)に転じたのは、天正5年(1577)、南泉和尚の代で、約400年前に当たる。その後、名僧南室和尚(勅諭大慈弘濟禪師)の徳をたたえて姫路城主 池田輝政公が姫路城築建の材をわけて再建されたのが現在の本堂であり、禅の道場として修行者を接待したという由緒を持っている。

境内にあるお夏・清十郎の比翼塚は姫路城主榊原忠次の1662年に、但馬屋の娘と幸公人の清十郎との恋愛事件で、その結末が悲恋となったと言われている。この二人の霊を弔う為に但馬屋が建てたものと言われている。8月9日はお夏・清十郎顕彰会、地域住民による「お夏・清十郎まつり」で賑わう。



慶雲寺前



慶雲寺

光正寺

播磨西国三十三番札所の内五番札所である。

井原西鶴、近松門左衛門以来「お夏・清十郎物」は文芸史上名高い悲恋の代名詞となり、境内の階段玉垣には幕末の頃の歌舞伎・浄瑠璃関係者の名が見える。

しかし、見方によれば自由恋愛の先駆けでもあると思われる。

野里公民館



固寧倉

飢饉に備えての備蓄倉庫。1853年建立。1846年までに藩に288ヶ所を数えた。備蓄量は米25俵、麦36俵、粉俵ほかで、1402人が30日分食べられる量と推定される。平成7年9月25日姫路市文化財指定。

現在、刀出、野里、東山、白浜、妻鹿の5ヶ所にある。



現在地

傳道館により...となる。境内にある山王堂は結核寺の...三代將軍家光公より朱印を買っている。竹柵は、名家老河合寸兼道臣の書畫を移築したもの。

路警察署
郵便局
会館



町裏浄水場



歴史の道

野里小学校



中濠

野里門跡

野里門

日本城郭研究センター

野里門郵便局

消防署

中央支所



県立歴史博物館

姫山公園北



誓光寺
庚申堂

誓光寺の境内に位置している。本尊は青面金剛童子。この堂は姫路城の御門を守護しているものともい。魚町の西福寺にあった庚申堂は、戦の裏切門にあたっていたともい。

河間町



野里公民館

光正寺

備前西国三十三番札所の内五番札所である。近松門左衛門以来「お夏・清十郎物」は文芸史上名高い恋恋の代名詞となり、境内の階段玉垣には幕末の清の歌舞伎・浄瑠璃関係者の名が見える。しかし、見方によれば自由恋愛の先駆けでもあると思われる。



現在地

姫路城外濠跡碑

姫路城には障から城を守るために内濠(2,970m)、中濠(4,323m)、外濠(5,232m)の三つの濠があり、総延長は12,525mです。濠の最終地点はここ野里御前町です。大半は埋め立てられています。竹の門の西方から北の濠端までは幅約2mの水路を残して埋め立てて公道としています。

あてまげ

姫路城の守りの一つとして道路に面して少しずれて道がついでいる所に設けた場所をあてまげと言う。敵の侵攻をここで鈍らせ、はさまみ撃ちにする。また死角となるため、隠れていると敵の動静を的確に把握することができる。

ノコギリ横丁

家屋が道に対し斜に建ち、商家との間に小三角状の空き地を生じ、町並みがノコギリ状に斜向して形成された。形成の理由は軍事説、地割説、方位説があり、はっきりしない。

中濠

外濠

神姫バスセンター
(ループバス発着場)

市バスセンター

姫路駅

町裏浄水場

歴史の道

中濠

中濠沿い桜並木

シロトピア記念公園

日本城郭研究センター

県立歴史博物館

姫山公園北

姫山公園南

野里門跡

野里門

野里門郵便局

消防署

中央支所

誓光寺

庚申堂

誓光寺の境内に位置している。本尊は青面金剛童子。この堂は姫路城の鬼門を守護しているものともいい、魚町の西福寺にあった庚申堂は城の裏鬼門にあたっていたともいう。

河間町

野里小学校

中濠



野里地区について

野里地区は姫路城の北東部に位置し、古代から、上方と西国とを結ぶ幹線街道である山陽道の要所として、また北方の但馬街道を結ぶ経路にあたる交通の要路として古くから集落が発達しました。

池田輝政は堀を三つの曲輪に区分し、総構式の城下町が作られ、更に本多忠政の時に町割がほぼ完成しました。

現在の野里の町名



野里の町名

古来この野里の地区の大部分は、もとの水上村野里とともに、「野里村」といい、大野郷に属しました。大野郷は「播磨風土記」(715年以前)の大野里です。

町名には、その地区の歴史、風土があり、職業、商業、商品名、社寺名、個人名などに由来するものが多くあります。

〔野里の町名〕

① 梅ヶ枝町

もと野里字「梅ヶ坪」といいました。坪は古代条理制の一町歩と同じく、その地域の古さを証する言葉です。元和元禄の頃は石田町ともいいました。梅の花が美しく咲き、梅ヶ坪の字にちなみ町名となりました。

② 威徳寺町

威徳寺の跡におかれた町であったことで「威徳寺町」と呼ばれました。威徳寺は増位山随願寺の末寺で、随願寺の鎮守の神であった日吉神社と相鍵役同志。鍵役とは支配人の意味で日吉神社が威徳寺を支配し、威徳寺が一方の日吉神社を指揮してきた関係にありました。威徳寺の跡に建てられたのが正願寺です。この地に、明治、大正、昭和の長きにわたって官学史学の大御所であった三上参次博士がいました。三上参次は野里小学校の校歌の作詩者でもあります。この地に姫路市都市景観重要建築物「魚橋呉服店」があります。

③ 野里大和町

大和町は慶雲寺の北方にあって、古くから町並みがあったようです。地名の由来は大和の国から移住して来た人が住んで、大和町と名づけたと言われています。大和郡山は姫路との交流の多い城下でありました。

④ 野里上野町

古くはこの辺りの地名は大野郷上野の里でした。古野里村の北方の地を「上野」と名づけていたことに由来しています。この辺りは「村雨野」と呼ばれ北西に日吉神社の「鳥居跡」があったと言われています。

⑤ 大野町

天正時代、大野市右衛門常利が居住していたため、又、古くこの辺りが大野郷といったので名づけられました。慶長町割の時、鋳物師統領芥田氏の居住地となったので鋳物師町といったのが、城東神屋に鋳物師町ができてから、明治22年町名を改められました。この地に姫路市都市景観重要建築物「大野邸」があります。

⑥ 野里慶雲寺前町

慶雲寺の前に面した道に沿った町です。明治22年当時の水上村(西中島・保城・野里・白国)が昭和8年に姫路市に合併し、平成7年の住居表示の改正により野里慶雲寺前町となりました。姫路市に合併される前は野里村字鍛冶屋村(北側)、及び野里村字阿保殿(南側)と呼ばれていました。慶雲寺は1443年の創建で境内には、お夏・清十郎を弔う比翼塚があり、毎年8月9日に「お夏・清十郎まつり」が行われます。この地には、姫路市指定文化財「固寧倉」があります。

⑦ 河間町

二股川の2つの流れの間であって、川の間のこと。天正の頃(1573~92年)の文書にすでに、この町名が見えます。明治期に「野里新道」が野里門からまっすぐに白国の陸軍第十連隊へつけられました。この地に雲松寺・誓光寺があります。誓光寺の境内には庚申堂があり、姫路城の表鬼門に当り、姫路城を守っています。

⑧ 野里寺町

寺町は寺が多かったことからこの名があります。南の五軒邸方面にも寺院町があり、上寺町、下寺町と呼ばれました。この町と区別するため「野里寺町」としました。野里界限には、増位山随願寺の末寺であった曼陀羅寺や光正寺、誓光寺などがあり、寺町には曼陀羅寺があったと言われています。明治22年より野里寺町です。

⑨ 野里月丘町

北条時頼が諸国を視察しながら、修行の際、ここに立ち寄って「ここに来て岡の松よりながむれば上野の沢にいづる月かけ」(播磨鑑より)と詠みました。これにちなんで野里月丘町と名前がつけられました。

⑩ 野里東町・野里中町・野里新町

昭和14~15年頃京口ゴルフセンターの位置に川西航空姫路製作所が出来、当時の社員の社宅がこの地に建てられ、その住居表示が北川西町でした。昭和20年の空襲で製作所は焼失し、社宅も民間に払い下げられました。そして、平成7年11月20日に地番表示から住居表示に変更され、野里東町、野里中町、野里新町となりました。野里東公園の中に小形地藏尊と小笠原神社があり、地域でお祀りをしています。

⑪ 野里堀留町

姫路城の外堀は清水門から南下して、お城の正面を巡って、東光中学校東側を抜け竹の門から西に曲がり、五郎右衛門邸を北上して、米屋町の北で行き止まりとなっています。(そこには姫路城外濠跡碑が建っています。)このことから堀留町と名づけられま

⑫ 鍛冶町

鍛冶町は「鍛冶屋町」と呼ばれ、鍛冶を営む家が立ち並んでいました。鍛冶には刀鍛冶や鉄砲鍛冶・甲冑鍛冶などの武具から生活用品まで様々な鉄製品の鍛冶職が多かったことから鍛冶町とよみました。この地に、医者であり、俳人の五十嵐播水氏が育ちました。

⑬ 坊主町

姫路城に仕える茶坊主が住んだ町です。茶坊主とは禅僧が茶の湯の作法や、茶道具の目利きをしたのが始まりで、江戸時代では、茶室の管理から城中の作法を担当しました。このほか、お茶の接待から雑務を行うのが業務であったようです。茶坊主の他、下級武士や足軽が住み、別名「足軽町」、「鉄砲町」とも言われました。この地には野里小学校、目のお宮「白川神社」、国の登録有形文化財に指定された「上月邸」があります。

⑭ 米屋町

野里界隈での裕福な商人の居住地となり、いつの時代にか大きな米屋を営む大商人が住んだようです。大きな米屋があったことから名づけられました。

⑮ 五郎右衛門邸

姫路城北東の外曲輪に位置し、江戸時代、鋳物師の棟梁芥田五郎右衛門の敷地であった所から名づけられました。

⑯ 福本町

中世の山陽道の街道を旅して来ると橋之町で二股川をすぎ、賑わいの町に入ります。そこを福というめでたい好字を取り入れて福本町と名づけられました。

⑰ 野里東同心町

同心が居住したのが町名の由来のようです。同心とは城下の治安、取締りを担当する役人のことです。慶長2年の「播州野里村古地図」では、この辺りに小者衆が住んだ居屋敷があったことが記してあります。

⑱ 鍵町

鍵町から威徳寺町に至る筋を「野里筋」といいます。町が橋之町の北から西へ行き野里筋を北に折れている、その形が鍵形に似ているので、こう名づけられました。

⑲ 橋之町

中世、山陽道の道筋にあたり、二股川に橋をつけたためについた町名。ここは、もと白井の宿と呼ばれて、二股川の渡しであった処に橋がかけられ、橋のたもとに、賑わいが生まれた地域であります。

⑳ 金屋町

金屋は砂鉄を精錬する建物です。古代からの砂鉄精錬法「たたら」は砂鉄を木炭で溶かして精錬する方法で、職人芸を必要とし、この職人達を金屋衆と呼びました。野里には鉄製造を業とする芥田・尾上・小野氏などが住んでおり、そこで働く金屋衆が多く居住したことから、この名があります。

㉑ 同心町

慶長年間には「御小者衆屋敷」があった地で、元禄時代には「足軽町」と呼ばれた。町奉行配下の町方同心の住む町から名づけられました。

㉒ 生野町

寛永年間(1624～)分町の時、但馬街道の出入口で、但馬の生野銀山に通ずるので生野町と名づけられました。生野銀山は古くから知られた銀山で17世紀には、石見銀山と並んで全国一の銀の生産量を誇りました。

㉓ 八木町

野里は職人、仲間・小者衆が多勢住む町で、米、麦などの食料は購入に頼りました。米の字を分けて「八木(はちばく)」とし町名にしました。この辺りは(金屋町・八木町・福居町)家屋を道沿いに斜めに建てるようにしたことから町筋がノコギリの歯のようにギザギザとなり、通称ノコギリ横町とよばれています。

㉔ 福居町

路傍にこんこんと清水が湧き出ている、「白井の清水」と呼ばれた湧き水がありました。慶長の町割の城下の拡大で白井村は城下となり、泉湧く清水の町から「井の町」を町名としました。「井の町」を3つに分割して福居町、金屋町、八木町と呼ぶようになりました。

㉕ 竹田町(上竹田町・下竹田町)

但馬竹田城は織田軍に滅ぼされ、江戸時代には廃城となりました。城下は取り潰されたために、楽市楽座で賑わう姫路城下野里に竹田城下の町人が移り住むことになり、これが竹田町の始まりです。

㉖ 堺町

堺町は称名寺(今の正明寺)の境内地の四隅の西境にあったことから堺町と名づけられたとも、野里城下町の境とする地だから堺町としたとも言われています。さらに慶長期の池田輝政は、防衛の町割を厳格に区別し、各地から諸寺を集め、寺院町(防衛区画)をつくり特異な町割を行いました。寺院区画と町屋の境界地をはっきりするため堺町と名づけたとする説もあります。